

親子ちゃれんじ①

～むしむしキャンプとテント泊～

- 1 趣 旨：地域の子育て支援として、幼児に関わる保護者の緩やかなコミュニティを創る。
親子で夢中になる機会を通して、お互いに楽しむ時間の大切さを感じる。
- 2 日 時：平成30年9月22日（土）13:00～9月23日（日）12:00
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 4 対 象：子どもとその保護者 25組、100名程度
- 5 参加者：31家族97名（保護者46名、子ども51名）
- 6 講 師：NPO法人こどもとむしの会 吉岡朋子氏 他7名



7 プログラムの内容

9月22日（土）13:45 虫とりに挑戦！

開講式で事業内容の説明やスタッフの紹介などを終えた後、講師の先生方から虫の捕り方のレクチャーを受けた後、親子で虫かごと虫網を持ち、それぞれ虫がいそうだと思う場所に出発していった。自分たちの五感をフルに使いながら、必死で逃げる虫たちを親子で協力しながら追いかけて捕まえていた。

トンボやバッタ、カマキリなどよく知っている虫について、講師の先生方から「これはオオヤマトンボだよ」「クルマバッタモドキだね」「ハラビロカマキリだー」など、詳しい名前や特徴を教えてもらっていた。

自分で捕まえた虫だからこそ、興味を持ち大事に思えるのはもちろんのこと、詳しい名前を聞いたら、なお一層大事さが増したようだった。



9月22日（土）15:00 テント泊に挑戦！

虫捕りをいったん止めて、今日の宿泊場所となるテントを、家族ごとで立てた。「今回初めてテントで泊まるんですよ」「テントってこんなに大きいのか!？」という声から始まり、職員のテント設営のレクチャーを受けて、家族で協力して立てていった。初めてテントを立てる人たちは悪戦苦闘する場面もあったが、早く立て終わった家族が自然と手伝う姿が生まれ、そこから保護者同士の会話が生まれていた。

立て終わったテントの中では、子どもたちがゴロゴロと楽しそうに寝転んで遊んだり、親子で楽しく会話をする姿があり、各々にテントを楽しむ姿が垣間見えた。



9月22日(土) 20:00 ナイトハイク、夜の虫観察

日が落ちて、虫の鳴き声が聞こえはじめたころ、講師の先生方が用意した、光を使った虫の捕獲機に夜に活発に活動する虫たちが現れ始めた。「夜の虫捕りは家ではなかなかできない」と話しながら、夢中になって虫を観察する親子の姿が多く見られ、講師の先生方は参加者からの質問に丁寧に答えていた。

ナイトハイクでは、吹上浜に出て浜辺で寝転びながら、職員の解説のもと星空やお月様を観望した。耳を澄ますと、波の音の間に虫の鳴き声も聞こえ、目と耳で淡路の自然を堪能することができた。



9月23日(日) 9:30 虫のお絵描きに挑戦!

2日目は、自分たちが捕まえた虫の中から、気に入った虫を選び、よく観察をして画用紙に絵を描いた。講師の先生方から教えてもらった虫の特徴を的確に描いていたり、虫捕りが楽しかった様子が描かれていたりした。この時描いた絵を全員分印刷してキャンプの思い出図鑑として一冊にまとめ、事業終了後に各家庭に送付した。



今回の事業で確認した虫の種類

確認された昆虫・・・・・・・・・・70種

確認された全ての生き物・・・・83種

8 参加者の声

- 捕まえたキリギリスが虫かごの中で夜中鳴いていたのが印象的でした。
- こんな広い施設で虫捕りをさせたことがなかったので良かったです。
- テントで寝たのが楽しかった。
- 虫嫌いな子どもと私ですが、少し克服できたように思います。



9 所感

昨年のプログラムは夜にオカリナコンサートと虫観察であったが、今年は中秋の名月が近かったことや秋の虫の声が多く聞こえる時期の開催であったため、夜の自然も楽しめるように、星空観察やナイトハイクなどを取り入れた。これによって、初めてのテント泊の参加者が夜の暗さに不安を抱くことなく、スムーズに夜の生活に入れたように思う。

事業全体としては、虫捕りや虫のお絵描きを通して、親子で夢中になる機会を多くつくり出したことで、保護者が子どもの生き生きとしている様子を目にしたたり、虫が苦手な子どもが平気になっている姿を垣間見られたりしたこと、親子間での気づきも多くあったと考えられる。また、テント設営や撤営などがプログラムに入ったことから、家族間で対話をする機会も増え、緩やかなコミュニティづくりがより促進されたことから、このような活動を積極的に取り入れていきたい。

